

## 葉色低下。的確な穂肥施用で後期栄養を確保

### 1 生育概況(コシヒカリ 7/26現在)

現在の生育(指標値比)

【平坦地】 葉色:やや薄い  
(SPAD値 -1.5)

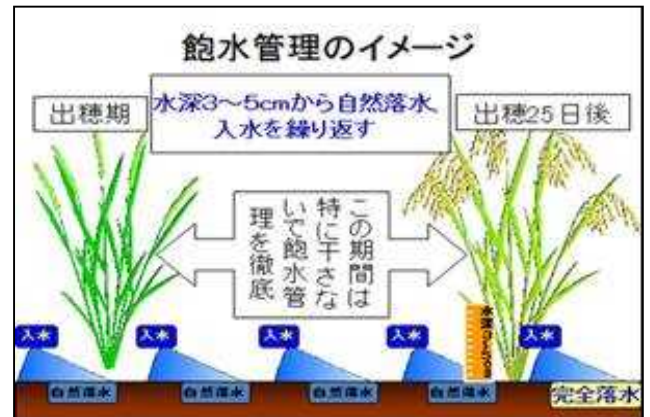
【中山間地】 葉色:並  
(SPAD値 +0.1)

- 「コシヒカリ」の葉色は平坦地や田植の早いほ場で淡くなっており、今後の栄養凋落が懸念されます。生育が遅れたほ場では濃かった葉色が指標値並に低下しています。
- 「つきあかり」、「こしいぶき」は出穂期を迎えています。

### 2 調査結果

#### (1)コシヒカリ

	標高	田植	葉色 (SPAD)		備考	
			本年	指標差		
平坦地	今熊(浦川原)	16	5/12	30.3	-2.7	2回目穂肥施用済み
	飯室(浦川原)	13	5/8	30.1	-2.9	2回目穂肥施用済み
	宮口(牧)	71	5/19	34.1	+1.1	
	平均			31.5	-1.5	
中山間地	安塚(安塚)	80	5/8	30.0	-3.0	7/27出穂期見込み
	和田(安塚)	133	5/15	32.2	-0.8	
	大島(大島)	152	5/15	32.5	-0.5	
	菖蒲(大島)	337	5/20	32.8	-0.2	
	高尾(牧)	352	5/23	38.1	+5.1	全量基肥
	平均			33.1	+0.1	



### 3 今後の管理のポイント

- 「コシヒカリ」の出穂は平年より2日程度早く、前年より3日程度早い見込みです。
- 2回目の穂肥(出穂10日前)は、後期栄養を確保するため、窒素成分で1~1.5kg/10aを基本的に確実に施用**してください。
- 出穂12日前頃の葉色が濃い (SPAD値35以上) 場合は2回目の穂肥施用量を窒素成分で0.7~1kg/10aとしましょう。
- 出穂期までに葉色が低下した場合は、栄養凋落が懸念されることから、品質維持のため、下記のめやすを下回るほ場では、追加穂肥を施用**してください。  
(出穂期3日前の葉色がSPAD値で31以下または葉色板で4未満の場合、窒素成分で出穂期3日前に1.0kg/10a以内を施用)
- 出穂の12日前頃から出穂・開花期頃は最も水が必要な時期です。**ほ場の水分状態に応じたこまめな水管理で穂体の活力低下や下葉の枯れ上がりを防いでください。**  
(高温下での長期湛水は根腐れに注意)
- 病害虫発生予察調査でカメムシ類が多く確認されています。斑点米被害を防ぐため、出穂前の農道・畦畔の草刈りとカメムシ類の本田防除を徹底しましょう。